

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス鳥栖教室		
○保護者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和6年11月1日		～ 令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動遊びを活用した療育支援を実施している。	・児童が楽しんで参加できるよう工夫している。 ・集団行動におけるルール。 ・同じメニューでも、一人ひとりができることやその日の状況に応じた柔軟な対応。	・児童自身が考えるメニューを取り入れたり、一緒に考え楽しめるようにしていく。 ・お友達が考えたものを互いに認め合う力を伸ばしていく。
2	・毎月のイベントを職員だけで決めず、子供たちの意見を聞くようにしている。	・子供たちにやってみたいことを聞き、イベントに取り入れている。 ・必要な物品や金額などを話し、実際にイベントとして実施できるのか一緒に考えている。	・今後も一緒に考える時間を作っていき、経験値を積み重ねることができるようにする。
3	・調理イベントや、演奏会(保護者による提案)、全教室集まったの修学旅行などのイベントを行っている。	・みんなで一つの物を作る体験を通して話し合ったり、普段関わることがない人との交流の場を設けている。	・修学旅行は、今年も計画中。 ・保護者も含めたイベントを計画し、交流を深めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・小学生から高校生まで、混在した教室の為、イベントの内容の学年の差を埋める必要がある。	・小学校低学年や、高校生がいる教室で、子供たちのできることや、やりたいことをどのように埋めていくか。	・上級生が下の子を見て、教えることができるような工夫をする。 ・工程を分けるなどの工夫をしていく。
2	・下校時間が異なり、運動遊びのグループ分けをしているが、先に終わっている子が後に運動をする子たちの活動が気になってしまう。	・教室がワンフロアである為、どうしても目に入ってしまう。	・運動する場所や、宿題、遊ぶ場所等の明確な区画分け。 ・後半グループが気になってしまう子には、お手本係や職員のお手伝い係などの役割を通して参加する事の継続。
3	・おやつや調理イベントにおいて、子供の意見を聞くあまり偏りが出してしまう。	・好き嫌いや、食の拘りがある子もいるため、残ってしまうこともある。	・食の拘りを減らすことは、災害などの緊急時にも対応がしやすくなると考えるため、今後も変えずに行きたい。 ・子供たちに、一つ食べてみようなど挑戦する声掛けなどを行っていく。